

教材活用シリーズ 第175回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などを紹介します。

文章題を解く力が身につく！
自主学習にも最適な書き込み式ドリル！

(株)新学社
『算数ドリル』
(小学1～6年生用
上下巻 東書版)



© Nintendo / HAL Laboratory, Inc.

(株)新学社
クリエイティブ編集センター

1. はじめに

「計算ドリル」や「算数ドリル」など、似た名称のドリルが発刊されている現状で、「なか特色のあるドリルを出してはどうか」という意見が社内から出ていました。

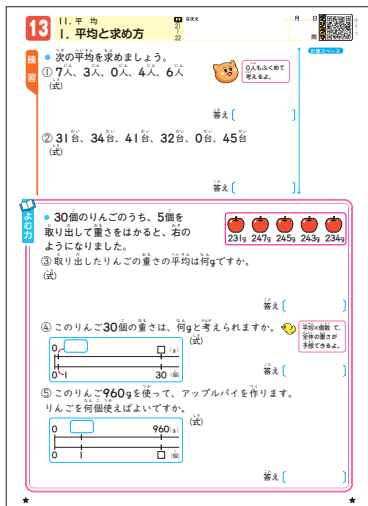
そこで、ドリルを使っている先生方からの「文章題が苦手な子が多い」「文章題の量を増やしてほしい」という要望をよくいただいていたことを思い出し、そのような声にお応えする形でドリルを企画しました。文章題のボリューム

は増やしつつ、今まで『算数ドリル』を使っていたいただいた先生からも抵抗がないよう、教科書の内容もすっかり網羅した新しい形の『算数ドリル』を制作することになりました。

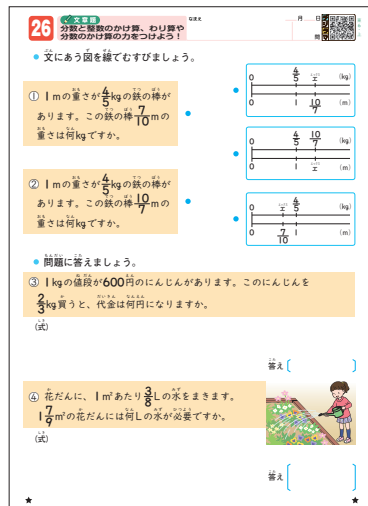
2. 内容・構成

どの学年も、教科書の内容を網羅していることとはもちろんのこと、文章題を解く力をのばす問題を多数出題しています。

計算単元では、「文・図・式」を結びつけな



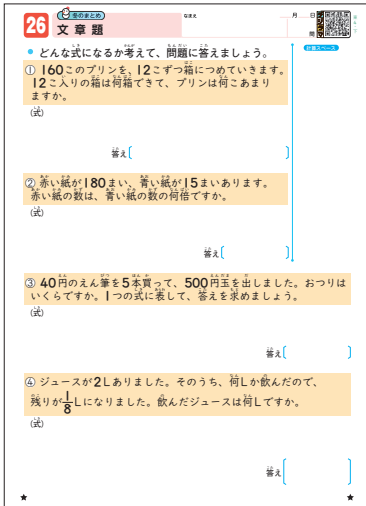
▲「文・図・式」を結びつけながら解く文章題を出題（5年）



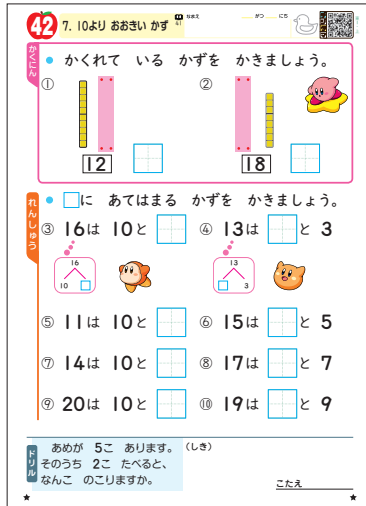
▲文章題ページでは、図などなしの文章題を出題（6年）

から解く問題を出題。文章題ページでは、図やヒントなしで解く問題も出題し、文章題を解く力の定着を図ります。さらに、計算以外の単元では「おまけ」として既習内容の文章題を出題していたり、夏・冬のとめページでは、既習の四則の文章題を出題していたりと、復習と演習をくりかえしながら、1年を通して文章題を解く力がつくドリルとなっています。

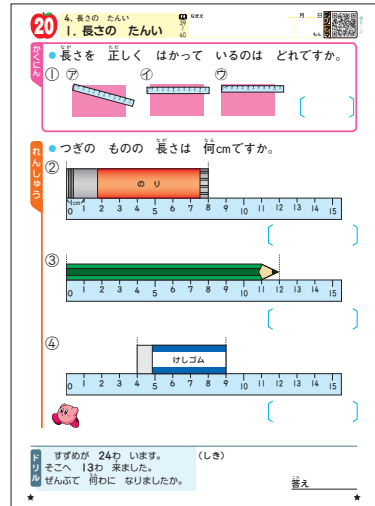
A4判の広めの紙面なので、書き込みがしやすく、1冊で完結するため達成感を感じられる作りになっています。さらに表紙や紙面内の



▲夏・冬のまとめページでは、四則が混ざった文章題を出題（4年）



▲「ドリル」コーナーで、文章題を出題（1年）



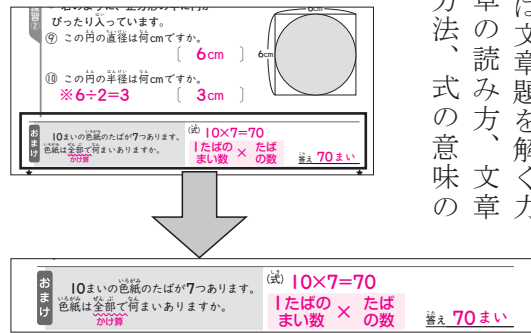
▲「おまけ」では既習の文章題を出題（2年）

カーバイと仲間たちが可愛く、児童がやる気をもって取り組めるようになっていきます。

3. 『算数ドリル』は結局何がスゴいのか？
『算数ドリル』は文章題を解く力に着目して、文章の読み方、文章を図や絵に表す方法、式の意味の理解、式から文を予想、などさまざまな方向から文章題を解く力へアプローチを行います。また、「おまけ」で既習文章題をたくさん練習できるだけでなく、別冊解答に簡単な解説がついているため、丸つけをしながら振り返ることができ、自主学习でも十分に力をつけることができます。1冊で習得から演習までができる画期的な構成、それが『算数ドリル』のすごさです。

制作時には算数を専門とされる先生に高関していただき、紙面の見やすさや分かりやすい表現、表現を変えて問う問題などについて検討いただきました。

ご覧になった先生は、「過去に算数にあまり熱心ではない担任の学級で、やや深い内容のドリルを使われており、子どもが戸惑っている様子を見てきました。しかし、このドリルでは自



▲縮刷解答「おまけ」部分

分を確認しながら学習を進めていくことができ、学ぶ楽しさを感じられるドリルだと思います。どの学級でも非常に頼りになる1冊です。多くの学級で使ってほしいです。私が担任なら、絶対使いたいです。」と、紙面内容と使いやすさを評価していただきました。

先生のご意見を基に検討をくりかえして発行に至った『算数ドリル』。内容や使いやすさに自信をもっていったものの、新しいドリルということで、学校現場からの反応がどうか不安と期待でいっぱいでした。

『算数ドリル』が世に出て数カ月。学期毎に行っている教材アンケートでは、「文章題の力は、思考を深めるために必要だと思い採択しました。」文章題が苦手な子どもが多いので、毎回のようにならぬ問題を復習できるのがよいです。「発展的な問題が最後についているところがありがたいです。」と先生方より褒めの言葉をいただきました。

4. おわりに
今回は、教科書の内容を網羅しつつ、文章題を解く力が身につく『算数ドリル』を紹介しました。デジタル教材が話題になっている昨今ではありますが、紙の教材だからこそ身につく力に着目して制作したドリルです。一度見本を手にとって『算数ドリル』のよさをぜひご覧ください。

誕生から1年の『算数ドリル』は、これからも先生のご意見や学校現場のニーズ、算数学習の本筋を見据えながらよりよいものに進化していきます。

今回のご意見を基に検討をくりかえして発行に至った『算数ドリル』。内容や使いやすさに自信をもっていったものの、新しいドリルということで、学校現場からの反応がどうか不安と期待でいっぱいでした。

『算数ドリル』が世に出て数カ月。学期毎に行っている教材アンケートでは、「文章題の力は、思考を深めるために必要だと思い採択しました。」文章題が苦手な子どもが多いので、毎回のようにならぬ問題を復習できるのがよいです。「発展的な問題が最後についているところがありがたいです。」と先生方より褒めの言葉をいただきました。

誕生から1年の『算数ドリル』は、これからも先生のご意見や学校現場のニーズ、算数学習の本筋を見据えながらよりよいものに進化していきます。

今回は、教科書の内容を網羅しつつ、文章題を解く力が身につく『算数ドリル』を紹介しました。デジタル教材が話題になっている昨今ではありますが、紙の教材だからこそ身につく力に着目して制作したドリルです。一度見本を手にとって『算数ドリル』のよさをぜひご覧ください。

誕生から1年の『算数ドリル』は、これからも先生のご意見や学校現場のニーズ、算数学習の本筋を見据えながらよりよいものに進化していきます。